

(1) 歴史的価値

歴史的景観資源は、人類の活動でつくり出したものとして、広く歴史の中で価値を持っています。その価値とは、建設年代が古いことによって生じる価値を基本とし、現在までの時間の経過によって加えられたさまざまな価値を含みます。例えば建築物では、登録文化財の対象となる建築後50年(半世紀)を経ているものや、めまぐるしく建て替えられる近現代建築に対しては25年(四半世紀)を経ているものを時間軸と考える場合もあります。さらに、特別の由緒・由来がある、特徴的な工法・材料が用いられている、現在では再現が容易でない技術・技能が用いられている、著名な設計者や施工者、職人の関わりがあることや、緑環境も含めて地域の歴史をたどる上で大切または希少であることなどが、歴史的価値として評価されています。

これらには、伝統・建築様式、構造・材料、構法・施工、環境・設備などに関する技術や時間の積み重ねが継承されて、社会の出来事の痕跡や記憶がとどめられており、歴史的景観資源が巨大な記憶装置となっているところに見出される価値です。



北大第二農場穀物庫

(北区北18条西8丁目・明治10年(1877年)築)
クラーク博士の指導下で建設された有畜大規模農場施設の一つ。スノコ状の外壁と高床式の建物で、明治10年建設、同42年移築。典型的なバルーンフレーム構造の小屋組がみられる。

- 建設年代が古い
- 時間の経過によって加えられた価値がある
- 建築様式が時代の特徴を伝えている
- 特徴的な工法・材料が用いられている
- 再現が容易でない技術・技能が用いられている
- 著名な設計者や施工者、職人の関わりがある など



旧市民会館前のハルニレ

(中央区大通西1丁目)

かつての豊平館前の庭園の一角にあったものと考えられる。昭和33年の豊平館移築後もそのままの位置に残された。市内中心部に残る数少ない古木であり、歴史性や存在感も十分で、樹容も整っている。



時計台

(中央区北1条西2丁目・明治11年(1878年)築)

札幌を代表する明治初期洋風建築で、かつ札幌農学校(現北海道大学)がこの場所にあったことを示す唯一の証。バルーンフレーム構造の2階の演武場兼講堂は、時計台ホールとして市民の人気も高い。



清華亭

(北区北7条西7丁目・明治13年(1880年)築)

明治4年開設の札幌初の公園「偕楽園」に、貴賓接待所として同13年に建設。開拓使を代表する和洋折衷の建物である。



三誠ビル

(中央区南1条西13丁目・大正13年(1924年)築)

大正13年建設の、現存鉄筋コンクリート造ビルとして札幌最古参の建物。設計者田中豊大郎は、大正8年から北大建築事務所長として医学部、工学部の創設工事を担当した。



札幌市資料館

(中央区大通西13丁目・大正15年(1926年)築)

全国の7控訴院のうち、現存する2つのうちの1つ。札幌軟石の重量感ある外観であるが、れんが造と石造および2階床、階段、柱を鉄筋コンクリート造とする混構造を採用している。



北星学園創立百周年記念館

(中央区南4条西17丁目・大正15年(1926年)築)

札幌初の女子中等学校である北星女学校の教師館として大正15年に建設。札幌で活躍したスイス人建築家マックス・ヒンデルの代表作の一つである。



旧小熊邸

(中央区伏見5丁目・昭和2年(1927年)築)

フランク・ロイド・ライトの弟子であり北海道を代表する建築家田上義也(1899-1991)の代表作。施工は札幌を代表する建設業者篠原要次郎。郊外住宅地として発展した旧円山村のモダン住宅の代表例でもある。平成10年に現在地に移築。